ノー・マンズ・ランド（2001）

NO MAN'S LAND

メディア 映画
ジャンル 戦争　ドラマ　コメディ
製作国　フランス／イタリア／ベルギー／イギリス／スロベニア
色彩　Color
時間　98分
初公開日 2002/05/25
公開情報 ビターズ・エンド

【キャッチコピー】
for Peace 平和こそすべて

【解説】
　ボスニア紛争真っ直中、“ノー・マンズ・ランド”と呼ばれるボスニアとセルビアの中間地帯に取り残された、敵対する二人の兵士を中心にそれを取り巻く両陣営、国連軍、マスコミを登場させ、笑いの中で戦争を痛烈に皮肉り、その不条理や愚かさを見事にあぶり出した辛辣な戦争コメディ。紛争当時、自らカメラを手に最前線に立ち、数多くの映像を撮り続けたダニス・タノヴィッチ監督の長編デビュー作。周到に練られた脚本は各国で絶賛され、2001年のカンヌ映画祭で脚本賞を受賞したほか、2002年のゴールデングローブ賞とアカデミー賞の外国語映画賞もW受賞。
　1993年6月。ボスニア紛争の最前線。霧で道に迷ったボスニア軍の兵士たちは、いつの間にか敵陣に入り込み、気づいたときにはセルビア軍の攻撃が始まっていた。唯一の生存者チキは、なんとか塹壕にたどり着き身を隠す。そこは、ボスニアとセルビアの中間地帯“ノー・マンズ・ランド”。偵察に来たセルビア新兵ニノと老兵士はボスニア兵の死体の下に地雷を仕掛けて引き上げようとする。その瞬間、隠れていたチキが二人を撃ち、老兵士は死に、ニノは怪我を負う。チキとニノの睨み合いが続く中、死んだと思われていたボスニア兵が意識を取り戻す。しかし、少しでも体を動かせばさっき仕掛けた地雷が……。チキはまさに身動きできない仲間を気遣いつつも敵兵ニノに眼を光らせるのだったが……。
　戦争の不条理を描き出した作品は数あれど、かつてこれほどまでに辛辣な内容があっただろうか。たしかに、中間地帯に取り残された兵士たちのにっちもさっちも行かないシチュエーションはまさにコメディの王道であり、極限状況で彼らがとる行動もまたおかしみに満ち、随所に笑いの要素が溢れてはいる。しかし、そんな彼らのすぐ横に厳然と横たわっている（！）一個の命の重みの前には、そうそう簡単には笑い声にするのを躊躇させてしまうのもまた事実である。たしかに、ブラック・コメディではあるのだろうが、そのブラックさがハンパじゃないのである。これがデビュー作となるダニス・タノヴィッチ監督の“悪意”は、これを観ている観客にも向けられているのかも知れない？　ともかくも必見の傑作である。

【クレジット】

監督	ダニス・タノヴィッチ	Danis Tanovic
製作	フレデリック・デュマ	Frederique Dumas
	マルク・バシェ	Marc Baschet
	チェドミール・コラール	Cedomir Kolar
脚本	ダニス・タノヴィッチ	Danis Tanovic
撮影	ウォルター・ヴァン・デン・エンデ	Walther van den Ende
美術	ドゥシュコ・ミラヴェツ	
衣装	ズヴォンカ・マクツ	
編集	フランチェスカ・カルヴェリ	Francesca Calvelli

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

音楽	ダニス・タノヴィッチ	Danis Tanovic	
録音	アンリ・モレル		
出演	ブランコ・ジュリッチ	Branko Djuric	チキ
	レネ・ビトラヤツ		ニノ
	フイリプ・ショヴァゴヴイツチ		ツェラ
	カトリン・カートリッジ	Katrin Cartlidge	ジェーン・リビングストン
	サイモン・キャロウ	Simon Callow	ソフト大佐
	ジョルジュ・シアティディス		マルシャン軍曹
	サシャ・クレメール		ミシェル
	セルジュ＝アンリ・ヴァルック	Serge-Henri Valcke	デュボワ大尉
	ムスタファ・ナダレヴィッチ		セルビア老兵士

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.